

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-196565

(43)公開日 平成8年(1996)8月6日

(51)Int.Cl.
A 61 F 13/15
5/44識別記号 庁内整理番号
D
H

F I

A 41 B 13/02

技術表示箇所

K

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全4頁)

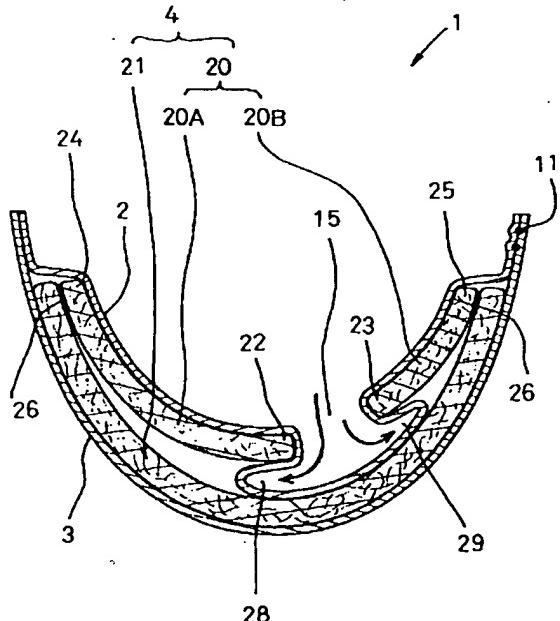
(21)出願番号 特願平7-11669
(22)出願日 平成7年(1995)1月27日(71)出願人 000115108
ユニー・チャーム株式会社
愛媛県川之江市金生町下分182番地
(72)発明者 大西 和彰
香川県観音寺市池之尻町175-1
(72)発明者 佐山 寧
香川県三豊郡豊浜町和田浜761-2
(74)代理人 弁理士 白浜 吉治

(54)【発明の名称】 使い捨ておむつ

(57)【要約】

【目的】使い捨ておむつに大便保持用のポケットを設ける。

【構成】透液性表面シート2と、不透液性裏面シート3と、それら両シート2、3間に介在する吸液性コア4とからなる使い捨ておむつ1において、コア4を上層コア20と下層コア21とで構成し、さらに上層コア20を前側コア20Aと後側コア20Bとで構成してそれら前後コア20A、20Bを臀部当接部位で前後方向に所要寸法離間させ、上層コア20を被覆する表面シート2をその離間させた部位で折曲し、上下層コア20、21間に折り込むことによって大便保持用のポケット28、29をつくる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に吸液性コアを介在させた使い捨ておむつにおいて、

前記コアをその厚さ方向を二分する上層コアと下層コアとで構成し、かつ、前記上層コアを臀部当接部位において前後方向を二分する前側コアと後側コアとで構成するとともに前記前後方向において前記前側コアの後端と後側コアの前端とを所要寸法離間させ、前記上層コアの上面を被覆する前記表面シートを前記後端と前端とにおいて前記下層コアに向けて折曲し、かつ、その折曲した部分を前記上下層コア間に折り込んで大便保持用ポケットを形成したことを特徴とする前記おむつ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、使い捨ておむつ、より詳しくは大便保持用ポケットを有する使い捨ておむつに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、使い捨ておむつにおいて吸液性コアに大便保持用の凹部を設ける技術は公知である。例えば、実開平6-5614号公報には吸液性コアの臀部当接部位に凹部を設け、その凹部の開口面に位置する表面シートで弁部を構成する技術が開示されている。大便是、弁部を押し開くようにして凹部に流れ込み、その後に閉じた弁部は大便が流れ出たり、肌に触れたりすることを防止する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記公知のおむつでは、コアに設けた凹部が型崩れしないようにしなければならず、そのために凹部内壁を固化したり、表面シートに代わる丈夫な透液性シートで被覆したりしなければならないという問題がある。さもないと、コアを構成する細かい粉碎パルプや高吸水性ポリマー粒子が弁の隙間から漏れて着用者に著しい不快感を与えることになる。コアは通常ティッシュペーパーで被覆するが、ティッシュペーパーの潤滑強度は極めて低いから、粉碎パルプ等に対する十分な漏れ防止手段になり得ない。

【0004】そこでこの発明は、コアを上下二層で構成とともに、上層コアを前後方向に二分して互いに離間させ、その離間させた部分から表面シートを上下層コア間に折り込むことで前記問題を解決することを課題にしている。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明が前記課題を解決するために手段とするところは、以下のとおりである。

【0006】この発明が前提とするのは、透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に吸液性コアを介在させた使い捨ておむつである。

2

【0007】かかる前提において、前記コアをその厚さ方向を二分する上層コアと下層コアとで構成し、かつ、前記上層コアを臀部当接部位において前後方向を二分する前側コアと後側コアとで構成するとともに前記前後方向において前記前側コアの後端と後側コアの前端とを所要寸法離間させ、前記上層コアの上面を被覆する前記表面シートを前記後端と前端とにおいて前記下層コアに向けて折曲し、かつ、その折曲した部分を前記上下層コア間に折り込んで大便保持用ポケットを形成したことがこの発明の特徴である。

【0008】

【作用】このように構成したおむつでは、上層コアと下層コアとの間に折り込んだ表面シートがおむつの後端および／または前端に向かって開口するポケットを形成し、そこで大便を保持することができる。

【0009】

【実施例】この発明に係る使い捨ておむつの詳細を添付の図面を参照して説明すると、以下のとおりである。

【0010】図1、2は、おむつ1の部分破断斜視図とそのII-II線端面図である。ただし、おむつ1が、図1において伸展した状態にあり、図2においては着用して前後方向に湾曲した状態にある。

【0011】図1において、おむつ1は透液性表面シート2と、不透液性裏面シート3と、吸液性コア4とからなり、前後方向が前身頃6と、後身頃7と、両身頃6、7間に位置する股下域8とからなる。おむつ1の左右両側には脚周り凹部に沿って弾性部材9が伸長状態で表面シート2、3のいずれかの内面に取り付けてあり、後身頃7には左右両側縁に慣用のテープファスナ10があつて、端縁部に腰周り弾性部材11が伸長状態で表面シート2、3のいずれかの内面に取り付けてある。股下域8の後身頃7寄りは臀部当接域であつて、そこには幅方向に延びる溝部15がある。

【0012】図2に示すように、コア4はその厚み方向を二分する上層コア20と下層コア21とからなり、上層コア20は溝15を挟んで前側コア20Aと後側コア20Bとからなる。前側コア20Aの後端部22と後側コア20Bの前端部23とは前後方向に所要寸法離間し、溝15の側壁を形成している。また、前側コア20Aの前端部24と後側コア20Bの後端部25とはホットメルト接着剤26によって下層コア21に接合している。上層コア20を被覆している表面シート2は溝15の両側壁に沿い下層コア21に向かって折曲し、その折曲した一部を上下層コア20、21間に折り込むことによって、おむつ1の後端に向かって開口する前ポケット28と、前端に向かって開口する後ポケット29とを形成している。これらの前後ポケット28、29は、前側コア20Aや後側コア20Bが厚み方向に下層コア21から離間することによって大きく口を開く。

50 【0013】表面シート2は、溝15においておむつ1

3

の幅方向全体を折曲し、折り込んだ状態にあるから(図1参照)、おむつ1の左右両側縁近傍で互いに重なり合う表面シート2どうしを接合し、その重なり合った間から体液漏れが生じないようにしてある。

【0014】このように構成したおむつ1では、排泄された大便が図2の矢印で示すように前後ポケット28、29に入るから、大便が表面シート2上に広がって着用者の肌をみだりに汚すことがない。特に軟便が排泄されたときには、前後ポケット28、29が顕著な効果を奏する。もっとも、このおむつ1で前後にポケットを必要としないときには、前後ポケット28、29のうちのいずれか一方だけを残し、もう一方を省くことができる。また、このおむつ1には、左右両側部で前後方向に延び、おむつの肌当接面から上方への起立性向を有する周知の伸縮性防漏堤(フラップ)を設けて、軟便が溝15の左右から側方へ漏れるのを防止することができる。

【0015】おむつ1において、表裏面シート2、3やコア4には当該技術分野における慣用の素材を使用すればよい。各部材を接合するにはホットメルト接着剤などを使用する接着技術の他に、熱溶融性材料に対する溶着技術を利用することができる。なお、コア4は慣用技術に従ってティッシュペーパーで被覆し、コア4を構成する粉碎パルプや高吸水性ポリマーを所要の賦形形状に保持することができる。

10

4

【0016】

【発明の効果】この発明に係るおむつでは、おむつの後端および/または前端に向かって開口するポケットに大便、ことに軟便を閉じ込めるようにして保持できるから、便で着用者の肌を汚すことがない。吸液性コアは表面シートで被覆してあり、また必要ならティッシュペーパーで被覆しておくこともできるから、従来技術のようにコアを構成するパルプや高吸水性ポリマー粒子がおむつの外へ漏れるおそれがない。

【図面の簡単な説明】

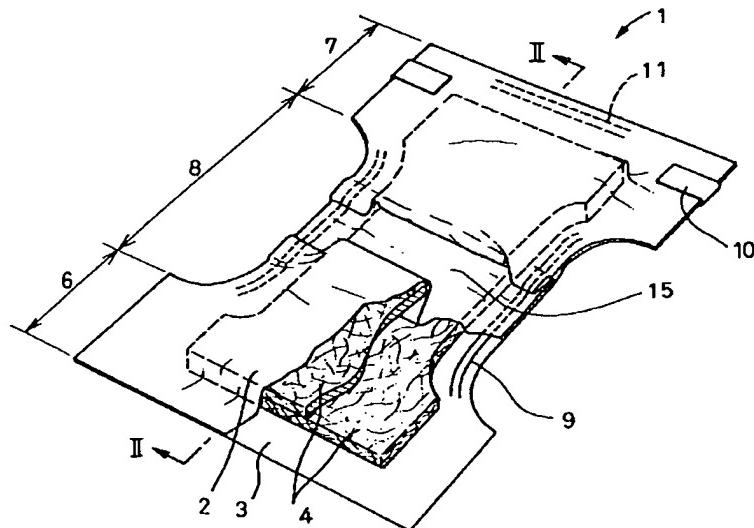
【図1】おむつの部分破断斜視図。

【図2】図1のII-II線端面図。ただし、おむつは前後方向に湾曲した状態にある。

【符号の説明】

- | | |
|-----|-------------|
| 1 | おむつ |
| 2 | 表面シート |
| 3 | 裏面シート |
| 4 | コア |
| 20 | 上層コア |
| 21 | 下層コア |
| 20A | 前側コア |
| 20B | 後側コア |
| 28 | ポケット(前ポケット) |
| 29 | ポケット(後ポケット) |

【図1】



【図2】

